

関連するSDGs

# E 水リスクの管理



**基本的な考え方** 国内外において気候変動の影響による渇水や洪水などの深刻さが増す中、水資源の効率的利用と水リスクの把握・管理は重要な課題と捉えています。水害や水質規制などの水リスクは生産拠点の活動に大きな影響を及ぼすため、拠点ごとの水リスクの適切な把握と管理を進めています。

## 水リスクの分析

当社グループでは事業活動を将来にわたり持続可能なものとするため、生産拠点ごとの水の供給や洪水の発生頻度などの水リスクを把握し、適切な対策を立案するため評価を進めています。

2021年に実施した1次評価では、各拠点が立地する地域の水課題を把握するため、流域別水リスク評価ツールWRI「Aqueduct」<sup>\*1</sup>、WWF「Water Risk Filter」<sup>\*2</sup>を用いた評価を、国内海外を含めた145拠点で実施しました。

今後は2次評価として、各拠点が位置する河川流域の地域の水リスクだけでなく、取水量や排水量等の事業への影響の観点からも評価を進めていきます。

\*1 Aqueduct(アキダクト)：世界資源研究所(WRI)が開発・発表した水リスクを評価するツール

\*2 Water Risk Filter：世界自然保護基金(WWF)が開発・発表した水リスクを評価するツール

〔WRI Aqueductによる評価結果〕

水ストレス度	生産拠点数	割合(%)
低い	26	18
低～中	113	78
中～高	1	1
高い	4	3
非常に高い	1	1
合計	145	100

〔WWF Water Risk Filterによる評価結果〕

水ストレス度	生産拠点数	割合(%)
非常に低い	0	0
低	122	85
中	17	12
高	5	3
非常に高い	0	0
合計	144	100

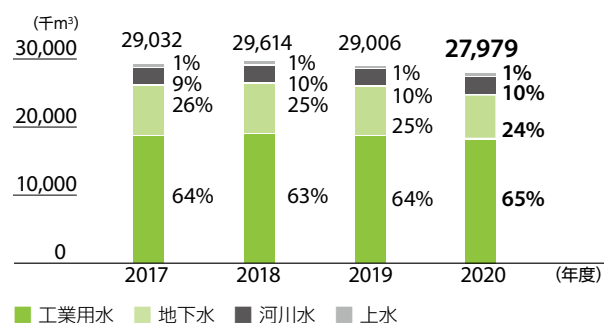
\*ハワイの拠点は評価対象外

## 水資源の効率的利用

当社は生産活動を行う上で必要な水を上水、工業用水、地下水、周辺の河川などから取水し使用しており、2020年度の水使用量は27,979千m<sup>3</sup>となりました。

限りある水資源を大切に利用するために、特に水使用量の多い製紙工場では、水資源の有効活用が不可欠です。生産工程での排水を水処理設備で処理し、再利用するといった新たな水の投入量を減らす取り組みに加え、全体の水使用量の削減を進めることで水資源の有効利用に努めています。

〔水使用量の推移〕



\* 四捨五入しているため合計が合わない場合があります